地域との共生

社会に提供する価値

- ●住みたくなる、行きたくなる沿線づくり●鉄道の強みを活かし、地域と一体となった観光振興
- ●地域と連携し、エリアに即した事業展開による地域の活性化



「山陰いいもの探県フェア」の開催

当社は、「JR西日本グループ中期経営計画2017(=以下、「中期経営計画」)」において「ありたい姿」とし て「地域共生企業」となることを掲げ、地域の皆様とともに西日本エリアの活性化を進めています。

その一環として、地域の皆様とともに鳥取・島根両県の地域産品や観光資源の魅力を発見・発信する 「山陰いいもの探県隊」を結成しています。また大阪では、「行ってみたい」「乗ってみたい」大阪環状線をつ くり上げるため、「大阪環状線改造プロジェクト」を推進しています。その中で、㈱ぐるなびと共同で「大阪 環状線ぐるなび」を立ち上げ、駅周辺のおいしいお店と駅の魅力を同時に発信しています。

2016年1~3月に、「山陰いいもの探県隊」と「大阪環状線ぐるなび」の連携企画として「山陰いいもの 探県隊」が発掘した山陰エリアの地域産品を大阪環状線沿線のぐるなび加盟店にて提供する「山陰いい もの探県フェア」を開催しました。西日本エリアを広くカバーする当社の強みを活かして、山陰エリアの生 産者と大阪の飲食店・お客様をつなげられる取り組みになりました。











//www.gnavi.co.jp/prt/jrwest/

様々な業者との関わりができ、新たな取引にもつながっています

「宍道湖の大和しじみを全国に発信したい」との思いで、「山陰いいもの探県隊」の企画するマルシェやフェアに 参加しています。私たちの弱点である営業力をカバーできる取り組みで、直接お客様の反応を知ることもでき、い



き、新たな取引にもつながって

これらをきっかけに、今後も 継続した取引にしていくため に、いい商品を誠実に提供し続 けるとともに、取引先へのフォ コーもしっかりとやっていきた と考えています。



「大阪環状線ぐるなび」をプラットフォームとして

飲食店にとって、扱ったことのない山陰の食材や、大阪環状線でのリアルな告知は大変興味深く、フェアには 抽選のうえ68店舗に参加いただきました。ぐるなびから飲食店への食材や調理方法のアドバイスなどにより、地



元では思いつかない料理が生まれ、フェア後も山陰から食材を仕入れている 店があるなど、地産他消を通じ た地域の活性化につながってい

これからも「大阪環状線ぐる なび」をプラットフォームとして 継続的な仕掛けをしていきたい ですね。地域活性化、観光、イン バウンドなど、JR西日本とベク トルを合わせてできることは多 いと期待しています。



㈱ぐるなび 大阪営業所 所長

基本的な考え方

鉄道を核に事業を営む当社は、地域を離れては存在し得ません。全国各地で地方創 生に向けた動きが広がりをみせており、具体的な取り組みの成果も現れてきている中、 当社グループは地域とWIN-WINの関係を構築し、ともに地域の活性化を図っていくこ とにより、当社グループの持続的成長につなげていきます。推進中の「中期経営計画」に おいても「ありたい姿」として「地域共生企業」となることを掲げており、同計画にある 「次の一歩へ。地域と共に。」という言葉に当社グループが共有する「目標」と「決意」を込 めています。

具体的には、各エリアにおいて地域の皆様との対話を重ね、当社グループと地域の皆 様が人的ネットワークを構築し、地域の課題やニーズを共有しながら、地域としての「あ りたい姿 を一緒になって模索していくことが大切だと考えています。

その上で、駅周辺整備や観光誘客、地域交通、エリアに根ざ したビジネス展開などにおいて、自治体や地元企業などと連 携を深めることで、長期持続的に成長する「エリア経営」の実 現をめざしています。

社会貢献活動の分野においても、各エリアで地域との交流 など職場レベルでの取り組みを続けるとともに、地域が抱え る課題に対して、当社グループの強みを活かして解決に貢献 する取り組みにも力を入れています。



地域との共生 全体像

西日本地域の活性化

- 新幹線「高める」:新幹線のポテンシャルを高め、交流を促進
- ●近畿エリア「磨く」:線区価値を向上し、都市の魅力を磨く ●西日本各エリア「活かす」:各エリアの魅力を活かす事業展開 事業創造「伸ばす」:新たな事業分野への持続的挑戦

- ●会社としての活動 ●財団を通じた活動
- 企業として、一人の社員として、 地域の一員として、地域に寄り添い、心の通い合う関係づくり

取締役兼常務執行役員 総合企画本部長 緒方 文人

特集(P.07~P.14)でも、地域共生企業をめざした様々な取り組みを紹介しています

〈近畿エリア〉線区価値を向上し、都市の魅力を磨く



鉄道を中心とした「住みたくなる」沿線づくりや、「行ってみたい」「乗ってみたい」と 思っていただけるような線区づくりを推進

駅改良や生活関連サービスの充実を通じた線区価値の向上

エリアごとの特色を活かしながら線区価値の向上を図るため、街づくりや再開発と一体となって駅や駅周辺の整備を進めています。 また、駅が地域の拠点となるよう、バリアフリー化、駅美化などを進めています。

あわせて、駅ナカ・駅ビル開発や生活サポート施設の設置などにより、暮らしを豊かにする生活関連サービスを充実させています。

東姫路駅の開業

JR神戸線御着〜姫路駅間に東姫路駅を 開業しました。「自然と歴史の拡がりを表現 した駅」として、駅舎デザインに市川、白鷺、 市之郷廃寺**1といった地域のキーワードを 取り入れ、地域の皆様にシンボルとして親 しまれています。駅周辺では新たに宅地開 発がはじまり、駅北側には兵庫県立ものづ くり大学校が設立されるなど、新駅設置を 契機にこれまで以上にエリアの活性化が進 んでいます。



高槻駅ホームの新設

当社と高槻市がともに検討を進め、JR 京都線高槻駅の上り方面、下り方面それぞ れに新快速電車・特急「はるか」専用ホーム を新設しました。特に朝夕の通勤・通学時 間帯におけるホーム上の混雑緩和による 安全性の向上に加え、新快速電車と普通・ 快速電車でののりばの競合が解消される ことで列車遅延の減少にもつながってい ます。また、関西国際空港直結の特急[は るか」一部停車による利便性の向上にも寄 与しています。



「吹田グリーンプレイス」の開業

吹田市の当社社宅跡地にショッピングセ ンター「吹田グリーンプレイス」を開業しま した。食品スーパーやレストランなどを配 置し、豊かな暮らしを創出するライフスタイ ルセンターとして、地域の皆様にご利用い ただいています。また、大学などの周辺環 境との調和を考慮したオープンモールと し、緑豊かな広場や小径などを配置し空間 にゆとりをもたせるなど、街のブランド向上 への貢献をめざしています。



※1 市之郷廃寺:7世紀後半~9世紀中頃まで存続した地域の有力寺院と考えられています。2008年に飛鳥時代(7世紀後半)の大量の瓦の破片や柱の土台となった礎石が発見されました

自治体や地元企業・学校との連携推進

自治体や地元企業・学校と連携し、エリアごとの特色を活かしながら賑わいを創 出するなど、線区価値を向上させる取り組みを進めています。



奈良~郡山駅間新駅周辺地区における 連携協定を奈良県、奈良市と締結



「桃谷アートミュージアム」を開催





連携協定を締結

COL UMN

安全で安心できる地域づくりのために

2016年3月、子どもや認知症高齢者の居場所を、 スマートフォンなどを通じて保護者がリアルタイム で把握できるサービス「sobani(そばに)」を開始し ました。小型の無線発信装置を持つ見守り対象者 が、駅や学校などに備え付けられた受信機器や専 用アプリを入れた協力者の近くを通ると、保護者に 位置情報が通知されるシステムです。今後、学校や 行政機関などと協力し、近畿エリアの駅から順次 拡大していく計画です。







〈西日本各エリア〉エリアの魅力を活かす事業の展開

エリアの観光振興や活性化、エリアに則した事業を推進

自治体や地元企業と連携し、それぞれのエリアの持つ魅力を活かす事業を展開しています。人的ネットワーク作りを進め、地域とともに魅力 ある資源を再発見し、地域内外に情報発信しています。あわせて、地域交通のおかれた現状や将来の姿を地域の皆様と共有し、次世代に向け た解決をめざす取り組みも進めています。

「くみはまライナー」の運行

2016年7~11月、城崎温泉駅から久美浜駅まで、 2016年7~11月 JR線と京都丹後鉄道線を乗り換えることなく利用で きる「くみはまライナー」を運行しています。これは、 城崎温泉へお越しのお客様が久美浜へ足を運びやす い列車を運行することによる、北近畿エリアの魅力度 向上を目的として、当社と京都丹後鉄道が協働して進 めました。地域の皆様とともに盛り上げ、但馬・丹後の 架け橋にしていきます。



「紀の国トレイナート」の開催

2014年度より、きのくに線を舞台に「紀の国トレイ ナート」を開催しています。これは、当社とアーティストの 方々、地域の皆様が協力し、駅舎を個性あふれるアート空 間に変化させ、列車に乗って駅舎巡りを楽しんでいただ くアートプロジェクトです。地域外からのお客様に楽しん でいただくだけでなく、アート制作を通して地域の方同 士の交流も生まれ、地域の活性化に寄与しています。



低カリウムメロンの生産

2013年より島根大学と共同で、低カリウムメロンの 安定生産とその活用メニューの研究・検討を行ってい ます。低カリウムメロンは、食事でカリウムの摂取制限 を受けている腎臓病患者様にも食べていただくことが 可能です。今後これを山陰発のブランドメロンに育て 上げ、地域産業の活性化につなげていきます。



私の次の一歩

地域の皆様と対話を重ね、 一緒に汗をかいています

2017年春の「TWILIGHT EXPRESS 瑞風」運行や 同年秋の幕末維新やまぐちDCに向けて、地域の皆 様との対話を大切にしながら、駅や車内でのおもて なしや、観光素材磨きについて、一緒に悩み、考え、汗 をかいています。

活躍するのは当社ではなく、地域の皆様だと思っ

ています。鉄道は 勿論、鉄道以外の して. 地域の皆様 とともに山口エリ アの魅力を発信し ていきます。そし て、実際に山口に 来ていただける国 内外の方を増や し、地域と当社の 双方がともに発展 していきたいと考 えています。





広島支社 山口支店 (左から)古村 涼、支店長 淺井 昌容、今村 和晃

社会貢献活動の更なる充実

地域社会に貢献する取り組みを推進

地域とともに生きる企業として、地域イベントへの参加や安全教室など地域に根 ざした活動を行うとともに、地域が抱える課題の解決に貢献する取り組みにも力を 入れています。

詳細な活動実績は当社ホームページをご覧ください http://www.westjr.co.jp/company/action/region/#projectC



JR西日本あんしん社会財団**の取り組み

「安全で安心できる社会」に寄与する事業を行っています。いのちについて考え、自 らを見つめ考えるきっかけを広く提供する「いのちのセミナー」や、地域社会の安全 について考える「安全セミナー」、救急救命の普及・啓発を行う「救急フェア」を開催す るほか、安全で安心できる社会づくりをされているNPO法人などへの助成を行って います。







「いのちのセミナー」を開催

助成先の方から

絆を深め安全で安心できる社会に

災害時に温かいご飯を供給することにより、復興への 気力と知力の回復に加えて精神的な安らぎも得ること をめざし、奈良県平群町内の災害時指定避難所全15箇 所に「防災かまどベンチ」**2の設置を進めています。

この「防災かまどベンチ」の設置には、JR西日本あ んしん社会財団からの助成も活かされています。こ の「防災かまどベンチ」の設置を通して、地域の方々 同士の交流が生まれており、この取り組みの広がり は、地域住民、行政、学校、企業などの絆をより深めて います。皆で安全で安心できるまちを作っていきたい と考えています。





防災かまどベンチ 実行委員会 森脇 順二 様

CHECK&ACTION

CHECK

地域の皆様と「ありたい姿」を共有する 具体的取り組みが実現

地域との共生に向けた取り組みは進捗し、地域活性化 の兆しが見えつつある取り組みも出てきています。京都 鉄道博物館の開業を契機とした京都・梅小路エリアの活 性化や様々なエリアでの観光列車による地域の魅力発 信、地域産品の発掘・発信などの取り組みが深度化し、地 域が成長する活力になりつつあります。

社会貢献活動については、同じ地域の職場間で連携 し、旅育*3や安全教室に取り組むなど、地域に根ざした活 動が増えつつあります。

毎年定期的に実施している企業レピュテーション*4調 査では「地域社会に貢献している」という項目の評価が過 去数ヵ年のトレンドとして上昇してきており、当社が「地 域との共生」に取り組んでいることが少しずつ社会に認 識されてきていると考えています。

ACTION

エリアの魅力を再発見・発信するとともに、 エリアの強みを活かした事業を 具体化していきます

エリアに則した事業を展開するため、地域の皆様との人的ネット ワークを構築し、活かすことにより、観光や地域産業の振興を図 り、地域の活性化につなげていきます。また、各種の取り組みを一 過性のものとせず、持続性を持たせ、成果の定着化をめざします。

近畿エリアでは、「大阪環状線改造プロジェクト」や「京都・梅小 路みんながつながるプロジェクト」におけるこれまでの取り組みを 発展させ、都市型観光を推進するなど、線区価値の向上を図ってい

西日本各エリアにおいては、観光ルートの開発や、エリアの魅力 を再発見・再評価し、発信する取り組みを継続して行っていきます。 また、発掘したエリアの魅力について、2017年春より運行開始予定 の「TWILIGHT EXPRESS 瑞風」を動く情報発信基地として活かす など、観光や地域産業の振興を推進していきます。

社会貢献活動については、地域に根ざした取り組みを継続・深度 化することに加え、地域の課題解決に貢献する取り組みにも引き続 き力を入れていきます。

^{※1} JR西日本あんしん社会財団:福知山線列車事故の反省に立ち「安全で安心できる社会づくりの一端を担いたい」との思いから設立した公益財団法人

^{※2} 防災かまどベンチ: 平時はベンチとして、災害時にはかまどとして活用する設備

^{※3} 旅育:小学生や幼稚園児を対象に駅見学や体験乗車などを組み合わせた課題学習プログラム ※4 レピュテーション:組織に対して一般の方々が抱く印象の総体